



宝永小だより

No.12

福井市宝永小学校

令和6年9月17日

学校教育目標：ひとり立ちできる子 ～心身共にたくましく、進んで学び合い、高め合う児童の育成～
めざす児童像：進んで学び合える子・協力し合える子・心と体を鍛える子・ふるさとを大切にする子

校内運動会に向けて練習開始

スローガン決定！！

一人一人が全力を出して思い出に残る運動会にしよう Let's enjoy !

9月26日(木)の校内運動会に向けて、体育の授業を中心に、様々な練習が始まりました。校内運動会では、体育学習で培った体力および運動技能を総合的に発表し、仲間と競争や協力することの楽しさや、体を動かすことの素晴らしさ、気持ちよさを実感し、進んで運動に親しもうとする態度を育てることを目的としています。

6年生が、夏休み前から準備を進めてきた応援練習が、9月3日(火)からは、全校で始まりました。各色の6年生が声を張り上げて、自分たちが考えた応援を下級生に教えていました。6年生は、下級生の声出しや動きを褒めながら進めていました。そのうち、6年生の一生懸命さが下級生にも伝わり、動きが大きくなってきました。本番が楽しみです。

応援合戦では、次の4点が審査されます。①態度：応援合戦中の様子 ②元気：色全体の子どもたちに元気が溢れているか ③チームワーク：振り付けや応援歌など、色全体の子どもたちの動きのそろい具合 ④アイデア：応援合戦の中に表れるアイデアの豊かさや、子どもらしい発想の工夫。どの色も、優勝や応援賞を目指して、6年生の子どもたちが試行錯誤しながら、練習を重ねています。

赤組

【団長】私は、皆さんと一緒に競技や応援ができることをとても楽しみにしています。全力で勝ちにいきましょう！

【応援団長】赤組の二連覇に向け、全力を尽くしますので、どうぞよろしくお願いします。「赤組はダントツで、すごかったな。」と思わせるような快進撃を見せつけましょう。

青組

【団長】僕はこの青組で、皆さんと一緒に優勝を勝ち取りたいと思います。みんな協力して頑張りましょう！

【応援団長】6年生にとっては最後の運動会なので、全力で優勝を取りに行きます！！青組の皆さん、一緒に頑張りましょう！！

黄組

【団長】僕は、応援を頑張りたいので、みなさんも応援に気合いを入れて頑張ってください。よろしくお願いします。

【応援団長】運動会ではオール1位を目指して、絶対負けないようにみんなで頑張りましょう。応援では大きな声を出したりなど、精一杯頑張ろう。

<1階廊下の掲示板に掲載してある「団長・応援団長からのメッセージ」>

6年生に 聴きました！

<運動会に向けて「これだけは他の人には負けない！」というものは？>

- ・運動会に対する情熱
- ・声の大きさ
- ・応援のふりつけ
- ・下級生への優しさ
- ・協力して頑張ること
- ・楽しむための努力

<〇組のメンバーとして、頑張りたいこと>

- ・下級生に、わかりやすく応援を教えてあげたい。
- ・しっかり下級生を支えて、競技も応援も頑張りたい。

<運動会が終わった後に、こんな自分になりたい>

- ・下級生があこがれる上級生になりたい。
- ・下級生に頼りにされる6年生になりたい。
- ・下級生に尊敬されるようになりたい。
- ・下級生に親しまれる自分になりたい。
- ・友達と、より仲が深まっていたらいい。
- ・何かの行事があるときは、全力で頑張る自分になりたい。
- ・下級生のみんなに優しく接して、この学校のみんなに、カッコいいと思われたい。この熱い気持ちを忘れないで、これから生きていきたい。

<同じ色のメンバーへ一言>

- ・優勝目指して、頑張ろう！
- ・全力で応援や競技を頑張って、優勝しよう。
- ・6年生は最後の運動会だから、思いっきり楽しもうね。

<応援練習の様子
上から赤・青・黄組>



子どもたちは、応援練習以外にも、徒競走や学年種目、表現、集団演技などの練習に励んでいます。5・6年生は、委員会ごとの仕事も担っています。校内運動会では、本番までの練習も含めて、精一杯競技したり応援したりする中で、一人一人が縦割り班の一員として協力し、互いに思いやる心や信頼する心を育んだり、自分の役割を自覚し、責任をもって行動したりしてほしいと考えています。順位等の結果だけではなく、その過程を大切にしたいと思っています。学年に応じて学んで得ることは異なりますが、学校生活がより明るく豊かなものになるような体験の一つになることを願っています。

【今年度の校内運動会について】今年度の校内運動会も、午前中のみ開催となります。保護者の皆様には文書でお知らせしましたように、保護者参観場所でご参観ください。授業の一環ですので、子どもたちとの接触はご遠慮ください。一生懸命に取り組む子どもたちの姿をご覧いただき、応援していただけたらと思います。

2年生 新しくなった市立図書館へ 9月6日(金)

生活科「みんなでつかう

まちのしせつ～図書かんのことを聞いてみよう～」の学習の一環として、5月に新しくなった市立図書館に行きました。

図書館では、司書の方に館内を案内していただいたり、質問に答えていただいたりしました。子どもたちは、司書の方の話をメモしながら、熱心に説明を聞いていました。その後、司書の方に、読み聞かせをしていただきました。最後に、たくさんある本の中から読みたい本を選び、借りることができました。

初めて市立図書館へ行った子もいましたが、どの子も、新しい図書館を満喫して帰ってきました。今後も、身近にある公共施設を大切に利用してほしいものです。

<2年児童の感想> 今日、図書館に行きました。いろんな本がありました。りっぱでした。また行きたいです。楽しかったです。

<2年児童の感想> しりつ図書館に行って、しつもんして、本は46万さつあるとか、1976年にたてたことをはじめてしました。22人だけが、はたらいているのにもびっくりしました。こんなに大きいところなのに、22人しかはたらいていないんだなと思いました。お話してもらいました。楽しかったです。



<メモを取る子どもたち>

5年生 昔ながらの稲刈り体験 9月6日(金)

「一乗谷あさくら水の駅」体験農園で、5月10日(金)



<刈る様子>



<束ねる様子>



<はさ掛けの様子>

に子どもたちが田植え体験(「宝永小だより」No.4に掲載)をしてから4カ月が経過し、刈り取りの時期を迎えました。子どもたちは、猛暑の中で、熱中症対策をしながら、稲刈りを体験しました。

地元農家で作る「あさくら水の駅ふれあい協議会」の方のご指導のもと、子どもたちは、たわわに実ったコシヒカリを鎌を使って一株ずつ刈り取り、束にして紐で縛った後、天日干しのために「はさ掛け」を行いました。子どもたちは、「刈る・束ねる・掛ける」の一連の作業を繰り返し行いました。普段はなかなか体験することのできない昔ながらの稲刈りを体験して、子どもたちは、米作りの生産過程や機械を使わず作業することの大変さについて学ぶことができました。

収穫した米は、すでに、学校に届けられました。



<コンバインでの刈り取り>

<5年児童の感想> 今日、「一乗谷あさくら水の駅」で、稲刈り体験をしました。社会でも、米づくりのことを学習していました。昔は、今日、体験したように、かまを使っていただけ、今は、コンバインを使っています。稲刈り体験をして思ったことは、「昔の人は、こんなに時間をかけて稲刈りをしていて、すごい。」と思いました。やる前は、「結構、出来そう。」と思っていたけれど、実際にやってみると「むずかしい...。」と思いました。一番むずかしかったのは、かった稲を束ねることです。最初は、少しややこしく、むずかしかったけれど、だんだん上手になってきました。かっているときは、なかなか一発で出来ず、大変でした。なので、お米は大切な物だと分かり、これからは、一つぶも残さずに食べたいです。農家の人はこんなに大変なこともやっていて、すごいと思いました。

1年生 虫取りに挑戦 9月4日(水)・11日(水)

生活科「いきものとなかよし～むしをさがそう～」の学習の一環として、子どもたちは、網と虫かごを持って、尾上公園や

職員会館裏の草むらへ行きました。そこで、子どもたちは、トンボなどの虫と出会いました。

職員会館裏の草むらは、例年、歩くだけで、無数のバッタが飛び跳ねる場所ですが、今年は、バッタにはほとんど出会えず、その代わり、無数のトンボが飛び回っていました。子どもたちは、歓声を上げながら網を振り下ろしていました。トンボを捕まえるのは、なかなか難しそうでしたが、「やったあ。」「見て、見て。」と目を輝かせながら、捕まえたトンボを虫かごに入れていました。子どもたちは、暑さが残る秋の自然に親しんでいました。



<トンボを捕まえた子どもたち>

*7月4日(木)の全校朝礼で、6年生の子どもたちの1年生のときの写真と現在の写真を提示し、「学校は何をすることで？」という話をしました。その後、6年生の子と「1年生のときの写真が懐かしかった。」等の会話をしたときのことです。その子は、「私は、1年生のときから、6年生に憧れていました。」と言うのです。改めて、本校の子どもたちは、入学したときから、先輩の素晴らしいところを見ながら、憧れをもって育ってきているのだなあと確信しました。だからこそ、6年生になった子どもたちは、これまで接した先輩に近づこう、追い越そうと、自主的に応援練習に精を出すのです。異学年で学ぶことの大切さがここにあるのです。

*応援練習の時間が終了すると、6年生の子どもたちは、各色の担当の教諭からアドバイスをもらいます。そして、それを次回の応援練習に生かしています。教室に戻る6年生の子どもたちに、ねぎらいの声をかけると、「覚えるのが早い。」「ちょっとずつ、大きい声が出るようになった。」と満足そうな声が返ってきました。応援が仕上がっていくことで、6年生の子どもたちは、手応えとやりがいを実感しています。上手いくことも、上手いいかないこともあると思いますが、仲間と情報共有して、成功に導いていくことを願っています。

*「どんなふうに、褒めたらいいのかな? つい、悪いところが目についちゃって...。」と思うことはありませんか? 褒める内容は、当たり前のことで良いのです。①今できていることを認めて褒める。②その子自身の過去と比べて、伸びたことを見つけて褒める。大事なことは、その子自身を認めて褒めることです。子どもの「すごい」「さすが」「すばらしい」をたくさん見つけて、言葉で伝えましょう。褒められることによって心に変化が生まれます。...⇒気持ちさがポジティブになる。⇒前向きに物事に取り組める。⇒「挑戦しよう」という意欲がもてる。⇒自分は大切な存在だと思える。⇒自分に自信がもてる。⇒学習が身に付きやすくなる。⇒自信をもって物事に取り組める、自立した子に。...毎日、お忙しい中でも、貴重な親子の時間を大事にしてくださいと思います。よろしくお願いします。